

シンポジウム「アレゴリーの歴史」のご案内（10月3日 上智大学）

Einladung zum Symposium „Geschichte der Allegorie“ (3. Oktober, Sophia-Universität)

会員の皆さま

下記の通りシンポジウムを開催いたしますので、ご案内申し上げます。

シンポジウム「アレゴリーの歴史」

本シンポジウムでは、古代のアレゴレーゼから中世の詩的形式、18世紀美学における「アレゴリー対シンボル」の対立、ゲーテにおけるバロック性、ロマン派によるアレゴリーの再評価、そして資本主義とアレゴリーに至るまで、アレゴリー概念の歴史の変容を通時的に検討し、アレゴリーとシンボルの対立図式そのものの歴史的再検討を試みます。

日時：2026年10月3日（土）10:00–16:30

会場：上智大学四谷キャンパス 中央図書館8階 L-821（対面・オンラインのハイブリッド形式）

主催：上智大学ヨーロッパ研究所

使用言語：日本語

【プログラム】

10:00–10:15 開会・導入「アレゴリー概念の変遷」

大田浩司（上智大学文学部ドイツ文学科教授）

10:15–10:50 「奇蹟譚としての『パルチヴァール』——無知のアレゴリーと父の不在をめぐって」

渡邊徳明（日本大学松戸歯学部准教授）

10:50–11:25 「ドイツ啓蒙期のアレゴリー——バウムガルテン、ヴィンケルマンを中心に」

桑原俊介（東京大学大学院人文社会系研究科美学芸術学准教授）

11:25–11:40 休憩

11:40–12:15 「アレゴリー表現から見るゲーテの『ファウスト』——ゲーテの作品に見られるバロック性を探る」

橋本由紀子（東京理科大学、明治大学非常勤講師）

12:15–13:15 昼休み

13:15–13:50 「フリードリヒ・シュレーゲルと〈アレゴリー〉概念の諸相」

武田利勝（早稲田大学文学学術院教授）

13:50–14:25 「『愛する対象はどれも、樂園の中心点である』——ノヴァーリスにおけるアレゴリー概念について」

高橋優（上智大学文学部ドイツ文学科教授）

14:25–14:40 休憩

14:40–15:15 「アレゴリーの商品——ベンヤミンのバロック論と資本主義論について」

茅野大樹（筑波大学人文社会系助教）

15:15–15:30 休憩

15:30–16:30 全体討論

詳細につきましては、上智大学ヨーロッパ研究所の HP をご覧ください。

<https://dept.sophia.ac.jp/is/ei/lecture/%e3%82%b7%e3%83%b3%e3%83%9d%e3%82%b8%e3%82%a6%e3%83%a0%e3%80%8c%e3%82%a2%e3%83%ac%e3%82%b4%e3%83%aa%e3%83%bc%e3%81%ae%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%8d/>

なお、参加には事前申し込みが必要です。HP よりお申し込みください。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

大田浩司（上智大学）